

磐田市立学校の通学のあり方検討委員会報告

昨今の猛暑や大雨による異常気象、児童生徒数の減少など、児童生徒の通学を取り巻く現状を鑑みると、安全安心に登下校できる環境が危ぶまれています。また、全市的に推進される学府一体校の通学についても、令和2年度に、スクールバスの運行を中心に検討されましたが、安全安心な通学のためには、現状に合った視点での見直しが必要であると考え、児童生徒の通学のあり方について協議しましたので、以下の通り報告します。

令和6年12月13日

磐田市立学校の通学のあり方検討委員会 委員長 加藤 祐二

1 検討委員

学識経験者	元小学校長	加藤 祐二
自治会連合会の代表者	自治会連合会竜洋支部長	吉野 博行
小中学校の PTA 代表者	豊岡北小学校 PTA 会長	早澤 恵
	豊田北部小学校 PTA 会長	新井 宏美
	大藤小学校 PTA 会長	左口 智規
	福田中学校 PTA 会長	黒柳 加代子
	竜洋西小学校 PTA 会長	大場 篤史
	城山中学校 PTA 会長	増田 智哉
小中学校長	豊岡北小学校長	亀家 達夫
	磐田南小学校長	松井 信治
	向陽中学校長	鈴木 英
自治デザイン課	自治デザイン課長	山下 和洋
学校教育課	学校教育課長	森下 昌司

事務局 学校づくり整備課
学校教育課

2 検討会経過

1	<p>第1回磐田市立学校の通学のあり方検討委員会</p> <ol style="list-style-type: none">1 開催日 令和6年7月5日（金）17:00～18:302 出席委員 12名 傍聴者3名3 検討内容 (1) 磐田市立学校の通学のあり方検討委員会設置の目的について (2) 磐田市内小中学校の通学の現状について (3) 学府一体校の推進について (4) 昨今の児童生徒を取り巻く現状について
2	<p>第2回磐田市立学校の通学のあり方検討委員会</p> <ol style="list-style-type: none">1 開催日 令和6年9月27日（金）18:00～19:302 出席委員 10名 傍聴者3名3 検討内容 (1) 今後一体校が建設される学府の通学について (2) 各学府の現状について (3) 向陽学府の通学の現状について
3	<p>第3回磐田市立学校の通学のあり方検討委員会</p> <ol style="list-style-type: none">1 開催日 令和6年10月25日（金）18:00～19:002 出席委員 11名 傍聴者2名3 検討内容 (1) 磐田市立学校の通学のあり方検討委員会報告について
4	<p>第4回磐田市立学校の通学のあり方検討委員会</p> <ol style="list-style-type: none">1 開催日 令和6年12月13日（金）17:30～18:002 出席委員 11名 傍聴者3名3 内容 磐田市立学校の通学のあり方検討委員会の報告 磐田市立学校の通学のあり方に関する提言

I 磐田市における通学の現状・課題について

1 市内全域の児童生徒の通学の現状

(1) 現状

〈通学方法〉

- ・小学生は徒歩、中学生は徒歩または学校で定められた距離に従い自転車での通学

〈通学路〉

- ・地域、保護者の協議により通学路を定め、学校ならびに市教育委員会に報告

〈通学支援〉

- ・通学距離に関する法令（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令）をもとに、小学校にあつてはおおむね4 km以内、中学校にあつてはおおむね6 km以内であるが、それ以上の通学距離となる場合には磐田市小中学校遠距離通学費補助金交付要綱に従い、距離数に応じた補助金を交付
- ・豊岡東地区は平成27年度の統合に伴いスクールバス（2台）を運行
※令和6年度豊岡北小学校の小学生44名が利用

(2) 課題

- ・通学路の危険
- ・昨今の暑さ、大雨等の異常気象
- ・児童生徒数の減少
- ・登下校時の送迎の増加など

※検討委員会における具体的な意見（抜粋）

- ・通学路として利用している道路の修繕や改修がなかなか進まず、危険と思われる通学路を利用している現状がある。
- ・通学路の樹木や草木の剪定、管理などが不十分であり、児童生徒の通学の妨げになっている状況が見られる。
- ・ここ数年、猛暑、酷暑により気温が上昇傾向にあり、登下校時の熱中症など、登下校時における健康面への心配がある。
- ・児童生徒数が減少し、集団登校ができなかったり、下校時に一人で下校したりするなどの状況が見られ、万が一の事故等の対応について不安がある。
- ・天候などの影響もあり、送迎による登下校が増加しているため、学校周辺の道路に渋滞が発生し、児童生徒への新たな危険な状況が見られる。
- ・野生動物の目撃情報が多く寄せられるようになり、登下校時の児童生徒、特に小学校低学年への被害などが心配される
- ・自転車利用のマナーや運転の仕方など、自転車による被害、加害等の事故の不安がある。

2 一体校推進学府の児童生徒の通学の現状

(1) 現状

- ・令和3年度にながふじ学府小中一体校が開校し、豊田北部小学校は豊田中学校と施設一体型の学校となり、登校時間をずらすなどの対応による通学
- ・令和6年度現在一体校化によるスクールバス運行なし

(2) 今後の予定

- ・令和8年度開校の向陽小中学校において、登下校時にスクールバス8台の運行を予定
〈対象地区ならびに対象想定人数〉
岩田地区全域（小学生92名、中学生50名）
大藤地区の一部（小学生51名）
向笠地区の一部（小学生15名、中学生4名） 計212名

(3) 課題

- ・校区が広がり通学距離が変化することによる様々な影響
- ・スクールバスの財源の確保
- ・学校周辺道路の危険増加
- ・送迎による登下校の対応など

※検討委員会における具体的な意見（抜粋）

- ・ながふじ学府小中一体校については、豊田北部小学校が同じ地区内に建設されたため、通学への影響は大きくはなかったが、それでも通学距離が長くなるなどの影響が少なからず見られた。
- ・向陽学府については、勾配もあり、人家も少ないため、通学距離が長くなることによって、健康面や防犯・安全面での心配がある。
- ・小学校低学年が人家の少ない向陽学府内の通学路を利用し、3 km以上を歩くことができるのか、何かあった時の対応に不安がある。
- ・向陽学府の小中学校は、現在でも送迎が日常的に行われているが、一体校に送迎用の場所がないため、周辺道路での渋滞が発生し、危険ではないか。
- ・児童生徒数が3倍以上になる向陽学府の通学に関しては、基準を見直すなど、児童生徒の安全を最優先に考えていく必要がある。
- ・今後、一体校を建設していく学府では、スクールバスを運行させることになったとき財源の確保はどうしていくのか。
- ・少子化による学校の統合と、地域としての願いをどう融合させていくのか。
- ・一体校化される小学校は全員スクールバス支援にするなど、保護者の安心につながる対策をしていく必要があるのではないかと。